

令和三年度 奈良県教育長賞

校舎の建て替えに思うこと

奈良県立山辺高等学校 一年 稲葉 柚月

現在、私が通っている高校は新校舎の建設工事が行われている。まだ入学する前にそのニュースを聞いた時は、新しい校舎で勉強出来るのなら良かったなあ、くらいしか考えていなかった。けれども、長引くコロナの影響で、飲食店などの休業補償やワクチン接種費用などに税金が充てられ、そして昨年には全国民に十万円が支給されたことなどを思い出した時、こんなにたくさんの税金が急に使われて、この国は大丈夫なのかと不安になった。もっと節約出来る場所はないのか、そんなことを考えた時にふと頭に浮かんだのが、この新校舎の建設だった。

インターネットで調べてみると、ある県立高校の建て替え費用は約四十九億円と出ていた。他にも三十億円といった例もあった。私の高校の校舎の建て替え費用がいくらなのかは分からなかったが、建て替えにはそんなに費用がかかるのかと驚いた。そして私達のためにたくさんの税金が使われていることを実感した。けれども、こうした建て替えの多くは、建物の耐震性が国による基準を下回っており、地震による倒壊の危険性が高いためであることも分かった。子供達が安全に学べるように税金が使われているのである。

そもそも学校に通っている私達の教育費は税金から支払われている。公立学校の児童、生徒一人あたりの年間教育費の負担額は、小学生で約八十八万円、中学生、高校生で約百万円である。もしこれだけの大金を自分で支払うとなれば、みんなが同じように教育を受けることはとても難しいと思う。

私が現在、学校に行って勉強出来るのは、税のおかげであると言える。工事の音がうるさい時もあるが、次第に校舎の形が出来上がっていく様子を見るのはやはり楽しい。コロナ禍で夏休みが延長となり、分散登校でオンライン授業の日もあるが、来年四月からは新しい校舎に移って、二年生がスタートする予定である。たくさんの税金がコロナ対策として使われている中で、私達の校舎の建て替えに使用された税金が無駄にならないように、ちゃんと勉強して、綺麗に使用しなければならぬと強く思った。